

吉和小・中学校

【教科】総合的な学習の時間

【学年】小3～中1

【育成を目指す資質・能力】主体的に学ぶ力 説明力 人間関係形成力

単元名

「地域開発プロジェクト」 ～ルバーブソースの商品開発に向けて～

【単元の概要】児童生徒は、吉和地域の課題について考える中で、吉和の人口が年々減っているという事実気付く。この課題を解決するためには、吉和地域の知名度をあげることが重要だと考え、「吉和の新しい特産物を作って吉和をPRしよう」と考えた。児童生徒は地域の特産物であるルバーブに目を付け、ルバーブソースの商品開発を行っていく。

【連携諸機関・人物】
ルバーブソース研究会

◆単元の目標

地域の特産物であるルバーブの商品化を通して、地域に働きかけ、地域に貢献しようとする児童生徒を育成する。

◆学習活動の実際（全24時間）

【吉和地域の課題について考える】

- ・各学年で、吉和地域の課題について意見を出し合った。
- ・出し合った意見を共有したり、地域の方の話を聴いたりすることで、課題を整理・分析した。
- ・地域の方からも地域を活性化させるための呼びかけがあり、子ども達の課題発見につながった。

【課題解決のために自分達にできることを考える】

- 吉和地域の課題：「吉和の人口が年々減っている」
- ・この課題を解決するためにはどんなことが必要かを考えた。
- 多くの人に吉和のことを知ってもらい、吉和に来る人が増えるようにしたらどうかな。
- ・吉和の知名度を上げるために、自分達に何が出来るかを考えた。
- 吉和の特産物を使った新しい商品を開発して、吉和をPRすれば良いんじゃないかな。

【課題の設定】

吉和地域の特産物であるルバーブを使ったソースを開発して吉和をPRしよう！

【商品の開発・販売に関する情報収集】

- ・商品の開発・販売のために必要な情報を収集した。
- 原料の栽培、ソース作り、商品の容器の開発
- ・商品の開発に向けた役割分担を行った。
- ①ルバーブ栽培グループ、②ルバーブソース開発グループ、③容器開発グループ

【商品の開発】（ルバーブソース研究会の商品開発部の一員として、商品開発を行った。）

技術科「情報をコンピューターに取り込もう」で身につけた「情報処理能力」を、ルバーブに関する情報を収集する活動に活用させた。

家庭科において身に付けた「献立について栄養のバランスを考え、工夫する力」を「ルバーブソースのレシピ作り」に活用させた。

ルバーブ栽培	ルバーブソース開発	容器開発
<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットを使って、ルバーブに関する情報を収集した。【技術科との関連】 →原産地、歴史、栽培法など 	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養教諭の先生と相談しながら、ソースのレシピを考えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・容器の材質や形を、コストや利便性を基に考えた。 →蓋付きのレトルトパウチの容器

ルバーブ栽培	ルバーブソース開発	容器開発
<ul style="list-style-type: none"> ルバーブの栽培農家へ取材に行き、植え付け体験をした。 学校の園庭でルバーブの栽培を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 考えたレシピを基に、実際にソースを作って試食した。 ソースを使ったレシピを考えた。 	<ul style="list-style-type: none"> 容器のパッケージのデザイン（ロゴ、キャッチコピーなど）を考え、ルバーブソース研究会に提案した。
		

【商品のPR・販売】

・学校の公開研究会で、これまで行ってきた商品開発の取り組みを紹介し、商品のPRイベント（紹介や試食など）を行った。

「学習の中で得たルバーブに関する情報や自分達が実践してきたことを適切にスライドに編集し、聞き手に分かりやすく発表する活動」を、国語科における「意図やねらいに沿って、ニュースを編集して、根拠を持って発表する学習」に活用させた。



・魅惑の里で商品の販売を行った。



【振り返り】

・学習の振り返りを行い、更に吉和をPRしていくためにはどうすれば良いか考える。

【児童生徒の感想・振り返り】

- ・今回の学習を通して、ルバーブという特産品をしっかり周りに広めていき、吉和がもっと有名になるようにしたいと思いました。私達が出来ることはとても少ないですが、吉和の発展へ生かしたいと思いました。
- ・今回の学習を進める中で、吉和の特産であるルバーブについてもっと知りたいと思いました。特にルバーブの歴史について、日本にもたらされた時期などについて調べてみたいと思いました。
- ・長い時間をかけて、ルバーブの商品開発を進めてきましたが、開発を進める度に新しい課題が出てきて、一つ一つ解決していくのが大変でした。でも、最後までやり切ることが出来て良かったと思いました。
- ・調べ学習や発表準備、発表まで全て自分達で頑張りました。この経験により、これから新たな課題があっても、自分達でよく考えて行動できるようになったと思いました。

【児童生徒の変容】

○吉和地域の知名度を上げる方法について、学習前は、吉和にできた特産物や施設など現在吉和にあるものを使ったアピールしか考えつくことができなかった。しかし、特産物のルバーブに目を付けルバーブソースという新しい特産物を、ルバーブソース研究会の一員として開発していったことで、新しい方法で吉和をアピールすることができ、自分達も吉和地域の発展に貢献することができるということに気付くことができた。

【成果（○）と課題（●）】

- 商品開発において、担当ごとにグループを分けて活動したことで、グループ内で協力して学習を進めていくことができ、児童生徒の人間関係形成力を高めることができた。
- グループごとに学習したことを毎時間の振り返りの場で全体に共有したり、適宜、中間発表会を設けてグループごとの実践を発表させたりしたことは、児童生徒一人一人の説明力の向上につながることができた。
- 自分達で地域の課題を考え、その課題を解決するために新たな特産物を開発して地域の活性化につながるという課題解決的な学習を進めることで、児童生徒の主体的に学ぶ力を育成することができた。
- 地域の人々と協力しつつ地域の課題を解決していったことで、児童生徒が住む吉和地域の活性化への意欲を高めることができた。
- パソコンを用いての調べ学習において、技術科「情報をコンピューターに取り込もう」の学習と関連付けることにより、児童生徒が適切な情報を素早く収集することができ、地域の特産物であるルバーブの特徴について詳しく理解することができた。
- 今回の学習に限ることなく、吉和地域の活性化に向けた地域貢献を、形を変えながら継続することができるようにしたい。